

あとがき

現代教化シリーズ〈GRANTHA〉第2号をお届けいたします。今回はシリーズ1号におけるテーマ「霊と仏教」を引き継ぎ、「宗教と霊的体験」と号して、百花斉放、談論風發、とまではいかないかもしれませんが、個性豊かな4氏の論考を載せることができました。

竹倉史人氏の講演録は、令和2年12月20日に、宗教の発生及び伝播と、現代における資源化をテーマに行われたものです。池上要靖氏には令和3年6月21日、日本ではあまり紹介されていない、東南アジアの大陸部における精霊信仰についてご講演を頂きました。また赤堀正明氏には、令和3年6月4日に、日蓮聖人の思想に見られる靈魂観について、赤堀氏の見聞譚を交えながら論じていただきました。菅野龍清氏の論考はGRANTHAのための書き下ろしで、日本の宗教観、靈魂観には欠かせない要素である怨霊についての考察です。

第1号に引き続き第2号においても、靈魂をテーマに仏教を始め宗教との関わりを素描してきました。また近いうちに取り上げたいと考えていますが、次号では又違ったテーマでの論集をお届けしたいと考えています。この現代教化シリーズ〈GRANTHA〉が皆様の参考になれば幸いです。今後も現代教化の現場に即した問題を取り上げお手元に届けていきたいと考えております。

日蓮宗現代宗教研究所